

## 第7話 帰国入試を考える 高校入試編②

実際に高校入試の帰国枠とはどのようなものなのでしょう。中学入試のそれと比べ、あまり帰国入試色は強くありません。（余談ですが、試験日の校門風景もずいぶん違いますね。生徒を見つけるのも一苦労！）

さて、高校帰国入試の形態は大きく分けて、

- ・帰国枠を設け、専用の入試を行っている学校
  - ・帰国枠を設けてはいるが、一般生と同じ試験を受ける学校
- があります。

具体的には、

- ・同志社国際（一般生は5科目→帰国生は3科目or小論文を選択）
- ・青山学院（帰国生は3科目を60分で行う「適性検査」）
- ・早慶付属（試験は一般生と同一だが、合格判定を優遇）

といった例が挙げられます。詳しくは、次回以降で見てくださいね。

今回は、受験に向けた勉強について。

上記のように、専用の入試を行う学校もありますが、一般生と同じ日に、同じ問題を解く学校も多いです。その中での帰国生の優遇措置としては、「合計得点にいくらか加点」「帰国生は一般生とは別枠から合格者を選出」など、学校によってまちまちです。

いずれにしろ、微々たるものと考えておきましょう。帰国の時期によっては、帰国枠から外れてしまうことも考えられます。一般受験に向けた準備をしておくに越したことはありません。

では、実際にどれくらいの勉強量が必要か。

私見ですが、高校入試は数学で決まります。国語に関しては、変な言い方ですが、日本語がしっかりしてさえいれば、それなりの点が出ます。日々の漢字練習や文法の勉強をサボらなければ、大差にはならないでしょう。その上で読解の練習をし、時間内に解答する練習をし、5点、10点を伸ばしていく作業です。

数学はどうでしょうか。練習不足では壊滅は必至です。見たことのない問題は解けるはずがありません。逆に言えば、解いたことのある問題は得点できるのですから、たくさん練習したものの勝ちですね。

そのために、「中3からが受験生」と考えると危険です。

中1の比例・反比例、中2の1次関数に慣れていなければ、中3で2次関数を解くことができません。中1・中2で式の計算にしっかり慣れておかなければ、中3の因数分解にかなりの時間がとられることでしょう。図形もしかりです。

中3になって、復習に時間を取られてしまわないように、中1・中2の内容をしっかり押さえておいてくださいね。中3の夏までには、全範囲を修了しておくイメージです。夏からは過去問を解いて、学校別対策をして、という追い込みです。（いわゆる受験勉強）

一番元気のある時期ですから、サクッと文武両道をしてしまいましょう。

著者：谷口 仁  
May 21 2016